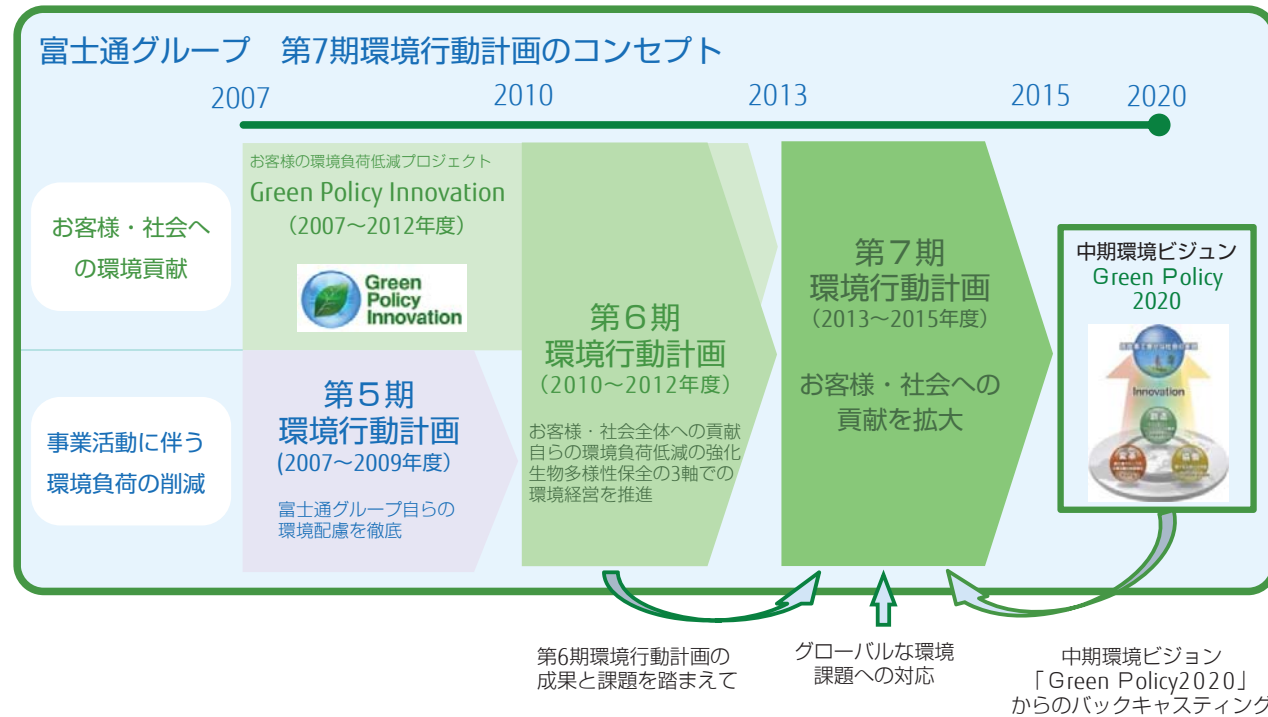


私たちの環境重点テーマ -ENVIRONMENTAL PRIORITY THEMES-

「富士通フロンテックグループ環境方針」に基づき、持てるテクノロジーと創造力を活かし、社会の持続可能な発展に貢献します。

富士通フロンテックグループは、気候変動問題や生物多様性保全など企業をとりまくグローバルな環境課題の動向や富士通グループの環境方針および中期環境ビジョンに基づき、「富士通フロンテックグループ環境方針」を定め、方針に基づいた「富士通フロンテックグループ環境行動計画」を策定し実践しています。
2013年度から2015年度の環境目標を「第7期環境行動計画」として策定し取り組んでいます。



富士通フロンテックグループ環境方針

理念

富士通フロンテックグループは、富士通グループ環境方針を順守し『環境にやさしい企業活動』を基本理念として、地球環境保全への取り組みを経営の最重要課題の一つであると認識して推進します。

ICT企業としてその持てるテクノロジーと創造力を活かし、社会の持続可能な発展に貢献します。また事業活動に関わる環境法や環境上の規範を順守することと並行し、自主的な地球環境保全活動に努めます。

さらに、豊かな自然を次の世代に残すことが出来るよう、すべての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを継続して追求していきます。

行動指針

- (1) 製品・サービスのライフサイクルを通じ、すべての段階において環境負荷を低減する。
- (2) ICTプロダクトとソリューションを通じ、お客さまや社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献する。
- (3) 省エネルギー、省資源および3R（リデュース、リユース、リサイクル）を強化したトップランナー製品を創出する。
- (4) 活動、製品及びサービスが環境に与える影響を常に認識し、環境関連法規制、その他の要求事項自主基準等を順守しCSRを果たす。
- (5) 活動、製品及びサービスにかかわる環境影響評価結果に基づき、汚染の予防及び継続的な改善を図る。
- (6) 「社会への貢献」と「自らの事業活動」において環境目的・目標の設定、見直しを行い、全員参加で一人ひとりが地球環境保全に努める。

第7期環境行動計画（2013～2015年度）

【社会への貢献】
ICTの提供による
温室効果ガス（GHG）排出量の削減

ICTの利活用をさらに社会全体に推し進めていくことでお客様や社会の環境課題解決への貢献を拡大するとともにエネルギーをより効率的に使うことを可能にし温室効果ガスの削減に貢献します。
ICTはあらゆる場面で暮らしを支えるだけでなく、人々を繋ぎ知恵を集め、持続可能でさらに豊かな未来を実現させる力があります。

【社会への貢献】
環境配慮製品の開発と提供
（エネルギー効率/資源効率）

エネルギー効率においてトップランナー製品（世界初、業界初世界最高、業界最高など）をはじめとした市場の上位に相当する基準を満たした製品を開発し提供することにより、さらにICTの利活用を社会全体に広げ、事業活動を通じて、地球環境をはじめとして広く社会課題の解決に貢献していきます。

【社会への貢献】
良き企業市民としての活動

社員が社会とともに取り組む、社会貢献活動を支援していきます。従来よりグローバルに実施している環境社会貢献活動は、今年も環境行動計画目標として設定し環境社会貢献活動を通じた社員の環境マインドの更なる向上を推進します。行政をはじめ各種団体との連携を強化しながら、より地域社会に貢献できる活動を国内外各拠点で継続的に実施していきます。

【自らの事業活動】
温室効果ガス（GHG）排出量の削減

従来のエネルギー消費CO₂（主に電力使用量）排出量に限定した削減活動から、すべての「温室効果ガス（GHG）排出量」に削減対象を拡大し活動を強化しています。物流・輸送に伴うCO₂排出量の削減においても、継続的に取り組んでいます。

【自らの事業活動】
お取引先とのCO₂排出量の削減推進
（2014年度より追加）

地球温暖化防止に向けて、社会全体での省エネルギーによるCO₂排出量削減が重要テーマとなっています。
自社のみならずサプライチェーン全体でCO₂排出量削減に取り組む必要があると考え、お取引先にCO₂排出削減・抑制の取り組みを働きかけています。

CONTENTS

私たちの環境重点テーマ	1
ごあいさつ	3
事業活動と環境負荷（マテリアルバランス）	5
製品への環境配慮（ハード開発/グリーン調達）	6
製造	7
ソリューション開発	8
サービス	9
目標と実績	10
環境パフォーマンス/節電実績	11
環境社会貢献活動	12
環境会計/国内事業所紹介/海外グループ会社紹介	14

■編集にあたって

富士通フロンテックグループは、最先端の技術で人とICTを繋げる企業集団として、お客様と社会の期待に応えお客様と喜びを分かち合うため、ハード・ソフト・サービスによるソリューションを的確かつ迅速にグローバルに提供することを使命として捉えています。

本書では、第7期環境行動計画の初年度の2013年度の実績を中心に分かりやすく紹介することを目指し編集いたしました。

■報告範囲

本報告書に記載した環境パフォーマンスデータは、富士通フロンテック本社・東京工場および新潟工場、熊谷サービスソリューションセンター、大宮ソリューションセンターと株式会社富士通フロンテックシステムズなどを対象範囲としています。

なお、富士通フロンテック本社・東京工場データ中に株式会社ライフクリエイトおよび関西支社のデータが含まれます。

■対象期間

2013年度の活動を中心に報告しており、記載しているデータはその実績値です。ただし、それ以外の期間の内容も一部含まれます。

■コミュニケーション（編集後記）

本年も自然災害が多発しており環境保全が大きく注目されておりますが、皆様のおかげにより、環境経営報告書第11号を発行することができました。

今後毎年1回発行を予定していますが、皆様のご意見を参考にしながら、読みやすい内容となるよう努めてまいります。

発行 2014年10月
発行責任者 経営執行役常務 松森 邦彦
企画・編集責任者 環境管理センター 立山 環